

2024 年度 服飾奨学金事業 終了報告書

2024年度服飾奨学生13名の受給期間終了に伴う報告をいたします。

1. 主な奨学金の使途（生活費、学費、教材費等）

・昨秋の大学院入学の手続きをする時期に家庭の経済的事情の急変があり、大学院入学に必要な経費である入学金については現在免除願いを提出しており、この結果は入学後の5月にわかることになっています。ただ、この入学金の免除申請をしたのが家庭の経済的事情の急変より僅かに早かったため、家庭の経済的事情の急変前で判断されるらしく免除になる可能性はあまり高くないと考えています。そうなった場合、入学金の額は現在の私にとって大金なので、今回支給していただいた奨学金をなるべく多く手元に残し、その一部に充たしたいと考えています。また、大学院入学後の授業料についても入学金同様、私にとって大金なのに加えて全額親に負担してもらえる状況ではなく、したがって授業料免除の申請もする予定ですが、これも免除されるとは限りません。それ故、入学金同様、今回支給していただいた奨学金の一部を充たできればよいと思っています。一方、奨学金受給が決定してから、それまで必要に迫られて従事してきたアルバイトを辞めたため、奨学金は通学に使う定期代の一部や、日々の学食を利用した食費の一部としても支出させていただいています。

・制作で使用する材料費、交通費や生活費などに使用しました。

・今回受給した奨学金は、これから受験する4つの検定試験受験代、教材費、会場までの交通費に活用する予定です。また作品の材料代や、アルバイト代で生活費を補えなかった場合に活用したいと思っています。今年の始めに、スーツを作るためのウールや裏地を購入し、完成させることができました。今まで難易度の関係で使うことができなかった柄物に挑戦するため、ツイード生地を使い、ベストとカーディガンタイプのスーツを作る予定です。

新しいことに挑戦しつつ、似た作品を作ることで復習し、今回の作品で、袖付けや柄のラインを合わせる技術を磨いていきたいと思っています。学校の授業以外では、ビーズや刺繍糸を揃え、作品をより繊細に魅せるために技術の習得に力を入れています。

これから就職活動も始まり、学校のある地域ではなく、地元で就職したいと考えておりますので、その交通費や必要になるものを揃えるために活用していきたいと思っています。

・5人家族で妹と弟がいて両親は共働きですが、年収は高くなく、私たちの生活費や弟、妹の学費などがあり家庭に重くのしかかっており、とても経済状況が良いとは言えません。そのような状況で私の学費も必要となれば学生生活を続けることは困難になるため奨学金を得て学校で自分の将来の夢のために学びたいと考えています。そのため御財団の奨学金で学費を工面したいと思います。

・自分の将来に向け、学校にきているインターシップや自分で気になる企業を見つけ、実際の仕事場で働くことで自分とその企業が合っているのかを確かめたいです。また学校生活では、ファッションショーがあるため就職の際学生生活で頑張ったことと言えるように委員会などで重要な役職に就き、共同で製作するので社会に出るための準備として協力的に取り組みたいです。また授業では服作りや資格取得に関わる授業などをとり、自分の将来のための準備を意識しながらやっていきたいです。

・奨学金はすべて後期の学費として使用しました。父親が脳卒中で倒れた後から父親が運営している会社の状況が悪くなり、学費を払って頂くことが難しくなりました。妹も大学に通っているため、二人分の学費を払わないといけない状況でした。そのため、私は親の負担を解決することを一番優先とし、学費を払うために奨学金を使用しました。学費を払ってから少し残った分に関しては、就職先と近いところに引っ越しをするために契約金として使用することができました。

・私は今年度、現学科を卒業し同学院のコースに進むことを決めました。いただいた奨学金は来年度の作品作りのための材料や学費、交通費など様々なことに使わせていただく予定です。また本格的に活動を開始したため、就職活動に必要な交通費にも充てていけたらと思います。多くの課題、就職活動と今まで以上に思うようにアルバイトができなくなると思います。そのため当奨学金により救われる一年になると思います。

・主に、学費や卒業制作の材料費に使用いたしました。後学期の学費を延納せざるを得ず、納入できていなかったためその学費のお支払いに充てさせていただきました。

その他には、2月のファッションショーに向けてヘッドドレス、チョーカーネックレス、イヤリング、ブレスレット等のアクセサリーの制作の材料費に使用しました。パールを基調に制作を行いトータルコーディネートとして、頭の前からつま先まで最大限にこだわった作品にすることができました。また、卒業制作とは別に学位記授与式で着用する袴の制作も行いました。3年次に授業で制作した小紋に合わせて、ウール地を用いて学位記授与式に向けて制作していました。授業で学んだ着付けを応用して袴の着付けも自ら行い、大学生活最後の日にこれまでの学びを発揮する場にすることができました。

・頂いた奨学金は、主に学費の一部として活用させて頂いたほか専門的な教材や工具の購入、作品制作に必要な布地や副資材の購入費用にも充てさせて頂きました。特に年間を通じて行われる政策課題では質の高い素材を選ぶことができ自身の表現を妥協することなく追及することができました。また、御財団のご支援があったからこそアルバイトに割く時間を減らし技術の習得やデザインの研究に集中することができました。この一年で得た知識と経験は、今後のクリエイション活動において大きな糧となると確信しております。

2. 主な進路で積極的に取り組むこと

・この4月よりナノファイバーに関する研究を行うことになっています。言うまでもなく、大学院における学生生活では、研究を中心にしながら様々な講義科目も履修し、その過程でより明確な自分自身の進路を決定することになると思います。一方、大学院での研究や講義とは別に、繊維製品品質管理士(TES)資格の取得を目指します。この資格は合格率が20%程度と低いことからわかるように、難易度の高い資格になります。これまでは、一番近い試験会場でも東京だった関係で、交通費がかさむことから受験することは出来ませんでした。その受験会場の一つが自校なので、来年度は躊躇なく受験する予定です。先にも述べたように、合格率が低い資格なので初回で合格出来ないかもしれませんが、私の場合最低2年間は在学するので、この2年間で合格を目指します。そして、TESの資格取得が出来れば、私が現時点で目指している繊維製品の材料となる素材メーカーやテキスタイルメーカーへの就職に有利だと考えています。希望が叶い、そのような企業に就職できた暁にはSDGsを意識したアパレル製品の開発に携わりたいと思っています。

・海外での就職を準備しているため、就職準備を頑張っています。就職の際、必要な英語の試験(Opic)を準備し、AL(Advance Level)を取るのが目標です。また、自己PRエッセイや筆記試験の準備などを頑張って取組んでいきたいです。

・入学当初からファッションや技術を学びに海外へ飛ぶか、国内の衣装制作の会社に就職するかでずっと悩んでいました。ですが、地元を離れ勉強する中で、地元へ戻って独特の良さや、バックグラウンドを国内外へ発信することを目指したいと強く思う様になりました。

まず初めに、技術面や知識をより学ぶ必要があるので、地元のアパレル企業に就職し、その中で様々なことを学び、自分の力を試したいと思っています。この1年間で就職説明会やセミナーなど積極的に参加し、希望する就職先の情報を集め、見学会や話を聞く機会がいただけたら伺いたいと思っています。

一度就職経験があるので、その時に学んだことや今までの経験を活かせる様に、練習や情報収集を怠らず、自分をアピールできる様に頑張ります。

・販売員を希望しており、就職活動で有利になるためにも、販売員として欠かせない責任感や周りを見て行動する力をグループ活動通してよりスキルアップにつなげていきたいと考えております。

・私はこれからパタンナーとして仕事をしていくため、日本のファッションブランドの長所である良い品質の服を作ることに取り組んでいきたいと思っています。そのためには、色んなブランドの服を見ながら良いところは参考にし、悪いところはどうやって改善すれば良いか日頃から勉強する必要があると考えております。そして、パタンナーとして仕事をする前の店舗研修でお客様がどういうところを大切にしているのか、なんでこの服を選んだのかを分析し、パタンナーの仕事に繋げていきたいと存じます。

・2年生になってすぐ、就職活動を始め、まだ4月ですが、ありがたいことに一次面接、SPIテストが通り、5月の半ばには最終面接が控えています。

私はdieselを志望していますが、まだまだ他ブランドに対する知識が足りないと思い、先週からブランド調査を始めました。現在では合計で200ブランドの服を学校帰りに試着して写真を撮り、ブランドの特徴をまとめた資料をつくっています。最終面接ではこの新しい取り組みについてお話させていただこうと思っています。

就職活動はもちろん、内定を頂いた後も学校で行われる接客ロールプレイングの大会や、スタイリングについての勉強など怠ることなく取り組み、就職先でいいスタートが切れるように尽力していこうと思っています。

・今年の4月から名古屋でオーダーメイドドレス店にてドレス制作に務めています。大学生活や自主制作で得られた縫製技術を活かして、ドレス制作に励んで参りたいと思います。ウェディングドレスを作り人々の記憶に残るものを作りたいという想いからブライダル業界の道に進みましたが、大学ではブライダルやドレス制作に関することを学ぶ機会はなかったため、学ばなければいけないことが多くあります。そのため、私はこの場所でウェディングドレスに対する理解を深め、多くの技術を学び、身に付けたいと思います。記入日には4月の末となり、あと少しで1か月が経とうとしています。ドレス制作だけでなくその他の業務もあり、覚えることがたくさんあるため混乱していますが、当たり前のように1つ1つを整理していき、日々努力してくことを大切にしていきたいです。

・今後の進路においては在学中に培ったデザインと技術をさらに磨き、企画からパターン、縫製まで対応できるクリエイターを目指します。将来的には独立し自分のブランドでコレクションを発表することを目標としており、その実現に向けて表現力やビジネス知識、発信力の向上にも取り組んでまいります。また、時代の変化を読み取り、次の流れを創り出せる人材となるべくインターンや展示会、コンテストなどにも積極的に参加し、視野と経験を広げていきます。日本のファッション業界を担う存在となれるよう今後も努力を重ねてまいります。

・現在はVMDの仕事に興味があり、将来的にはVMD関係の仕事に携わりたいと考えております。そのためには、まずは販売員としてブランドとお客様をつなぎ、お客様に満足して頂けるような経験を提供し、その経験を通してお客様により買い物を楽しんで頂けるような店舗作りができる技術を身につけていきます。

3. 当奨学金を受給しての感想

・奨学金の受給が決定してから、それまで従事していたアルバイトを辞めました。このアルバイトについて少し具体的に記述すると、自宅の近くにある定食屋さんでの接客を中心とした仕事なのですが、学業に支障をきたさないように、1週間に最大でも2回(4時間～8時間程度)だったので、そこでのアルバイト代は2万～3万円/月ほどでした。そして、アルバイトを辞めてみて気づいたのは、学業に専念する時間がかなり増えたということです。つまり、アルバイトと学業を両立させていたつもりでしたが、アルバイトをすることによって、学業に専念する時間がかなり浸食されていたことを痛感しました。たとえば、それまではアルバイトに当てていた土曜日と日曜日も大学の研究室で卒業研究ができるようになり、卒業研究をより充実した内容にすることができたと実感しています。このことは、私にとって良い教訓になると同時に、この奨学金を受給させていただいていることに対して改めて深く感謝の念を感じている次第です。またもう一つの感想として、自分の内面に大きな変化があったことです。というのは、奨学生として選んでいただいたことが自分自身の大きな自信となり、このことをベースにそれまで以上に勉強意欲が向上したと思っています。と同時に、学生生活全般において、奨学生として恥ずかしくない行動をとることを日々深く自覚するようになったと思います。

・このような奨学金制度があり、就職生活の準備時間に有効活用することができました。本当に助かりました。また、学長奨励賞に選ばれ無事に卒業することができました。本当にありがとうございます。

・奨学金を受給することができ、心から感謝しています。

高校卒業後は金銭面での不安があり、服飾専門学校の進学を諦め就職し、その後も自分の夢に確信が持てずに県外を転々とし、2年間英語の学校にも通いました。

悩む間も常にレベルアップしたいと思い、色々なことをしていましたが、それでも夢を諦めきれずこの道を進みました。ですが奨学金を申請しようにもどこも対象外で、応募すらできませんでした。

生活が苦しい中、この様に奨学生として選んでいただき、十分な環境で大好きな服作りに取り組み、教育を受けることができています。本当にありがとうございました。

・この度は奨学金のご支援ありがとうございました。私はファッションの学校に通い将来のために学業を続けたいと考えていました。金銭面の不安がありましたが奨学金の寄付により学業に専念する事ができました。今は、自分の将来のために動くことで精一杯ですが、将来は私も他人のために手助けしたいと考えています。改めまして、今回の奨学金を給付いただき、誠にありがとうございました。

・課題と就職活動を一緒にしないといけない大変な3年生の生活でしたが、奨学金を頂けるよ

うに なったことでアルバイトをしないで勉強に集中することができ、日本留学を決めた時から入社したいと思ってきた日本の大手アパレル企業のボタンナーとして入社することができました。 外国人として私の夢だった会社に入社することができたのは、公益財団法人日本へいわ財団の奨学生として選ばれ、一生懸命に勉強できるような環境があったからだと思います。これからもありがたい気持ちを持ち、日本のアパレル業界の発展のためにもっと頑張っていきたいと思います。

・まず、奨学金のおかげで学費や生活費の不安が軽減され、より積極的に学業に打ち込めるようになりました。学業面はもちろんですが、生活面でも奨学金制度を通じて同じような境遇の人たちとの交流を通して、人脈が広がりました。自分の中の悩みや不安を年の違い世代の子達と一緒に共有できるのは物凄く心強いですし、また一つ心の拠り所ができた気がします。

また、自分の中の視野がとても広くなりました。夢や目標に向かって進むための資金となり、大きなモチベーションになったことや、奨学金をいただいてから、その恩を返したいという思いを抱き、社会貢献への意識が高まり、経済的に諦めてきた進路にも挑戦することができるなど自分の可能性が無限大になったと強く感じています。

感謝の気持ちを忘れずにこれからも将来に向けて尽力していきたいと思います。

・貴法人からの奨学金の受給がなければ、学費の納入ができず学生生活を送ることが困難でありました。学業とアルバイトの両立ができない私にとっては、大学で学びを得ることがすべてであり貴法人からのご支援は大きな支えとなっております。学費以外の材料費等にかかる費用に関する不安もありながらも、貴法人のご支援のおかげで制作意欲のままに様々なモノを制作することが可能になりました。この1年間は、特にそれを感じておりました。大学で学べる範囲以外に、リュネビル刺繍や靴教室に通うことができ、簡単には経験できない ことを学生の時に経験できたことはとても大きいと実感しております。また、そこで学べたことはモノづくりの視野 を広げることに繋がっています。加えて、前項に記入しましたが、卒業制作を完成させるためのアクセサリー 制作や学位授与式のための袴の制作をしたいと思いそれを実行できたのは、ご支援いただけたことが大きく、 材料にかかる費用の面で制限を受けることなく、制作に集中することができたためです。 貴法人から奨学金を受給いただけることで多くの経験に繋がり充実した学びを得ることができました。

・この度は温かいご支援を頂き本当にありがとうございました。奨学金を受給できたことは、私にとって経済的な支えであると同時に「応援してもらっている」という心強い励ましでもありました。

4. その他

・本奨学金受給決定までは学業継続の足しになるようにアルバイトをしていましたが、そこで得られる収入は2~3万円/月程度でした。このようなこともあり、本奨学金受給額3万円/月に対しては、貴財団に対する深い感謝の念はもちろん、このお金の重みを身に染みて感じています。一方、この経済的な有難さ以上に、この奨学金受給の決定は私の心に大きな変化をもたらしました。私は大学入学前までは将来に対する確固たる目標もなく、何となく周りに流されて過ごしてきたという一面がありましたが、大学入学後の学生生活の中で大学院進学を目指すようになり、幸いその目標が達成でき、次の新しいステップを踏み出すタイミングでこの奨学金受給が決定したことは大きな自信となりました。さらに、残された学生生活の日々を、貴財団奨学生であることに恥じないよう過ごさなければならないという緊張感を持つようにもなりました。また、私のこれからの長い人生においても、貴財団の奨学生になれたことはこれからも誇りです。つまり、将来社会人として生きていく過程においても、貴財団の私に対する信頼を損ねるようなことのないような日々を過ごしていく覚悟です。最後に、これからの大学院生活についてですが、新たな環境の下で、これまでとは異なる研究をベースとした日々を送ることになりますが、そこで新たな発見をとおして、自分の将来構想が大きくかき変わる可能性もあります。そして、これからの人生のどのような局面においても、貴財団の奨学生であったことを心に深く刻み、今後の人生を切り開いていこうと考えています。

・奨学金をいただけることに本当に感謝しております。今後も自分が成長できるように取り組んでいきたいと思っています。これからも頑張ります。1年間お世話になりました、本当にありがとうございました。

・この挑戦を諦めなくて良かったです。

幼い頃から服のリメイクやハンドメイドなど、自由にデザインし、自分の手で作り上げることが好きでした。成長するにつれて服飾関係の仕事に就きたいと思い、進学について調べたり、学校見学などに行ったりしていましたが、現実的に通うには難しい部分があり、幾度となく遠回りをしていました。

パソコンを使いながらデザイン全般学べる高校へ推薦入学し、大手企業の正社員として働いたり、東京や大阪をアルバイトで移動しながら観光したり、沖縄に戻って2年間町営の英語塾に通いました。また民間企業や外務省、町の協力で、高校から数えて3回アメリカへ派遣してもらえました。アルバイトに関しても、接客業やデータ入力、米軍基地内のフードトラックや土木関係など、なるべく幅広い職種を経験する様にしていました。

中学卒業から10年間、遠回りをしながらもさまざまなことを経験し、やっと服飾専門学校に通う機会を得ることができました。ずっと諦められず気持ちの片隅で目指したい場所であった夢が、実現に向けて一歩を踏み出し始めたところです。毎日服を作る、学ぶ喜びで楽しく学校に通っています。諦めずに目指し続けてよかったと心から思います。

支えてくれた方々の期待に応えられる様に、毎日精一杯学んで吸収していきたいと思います。

・これから自分の将来のためにも勉強を欠かさず、資格取得など自分のためになることは挑戦していきたいです。自分がこの学校に通ってよかったなと後悔がないように残りの学生生活を過ごしていきたいと思います。

・この度は奨学金の受給ありがとうございました。御財団のお陰で勉学や外部コンテストにより一層専念できました。この度は誠にありがとうございました。

・公益財団法人日本へいわ財団から奨学金を頂き、一生懸命に勉強する機会があった為、学生時代の目標を達成することができました。最後の学生生活が終わり、これからは社会人としてもっと長い時間を過ごしていくと思いますが、学生時代の目標を達成したからと言ってここで満足せず、社会人としての新しい目標を立て、社会に役に立つ立派な人材になるためにもっと頑張っていきたいと思います。

そして、奨学金を頂いたことが色々な意味で大変な状況だった私に、頑張れる原動力となったため、私もこれから困っている学生たちが立派な社会人になるために私ができることがあれば手伝いたいと思うきっかけになりました。これからもこの気持ちを忘れず、自分が立てた目標に向けて頑張っていきたいと思います。

・この度は奨学金のご支援ありがとうございました。私の中で不安だった将来、進路の可能性が大きく広がったことはとても大きな成長だと感じています。就職後も diesel のエグゼクティブスタイリストを目指して、精進してまいります。

・この度は一年間ご支援をいただき、本当にありがとうございました。奨学生として選んでいただいたことで、より一層勉学に励もうという思いになり、一年生の時よりも濃い生活をおくることができました。一年生の頃には親に迷惑をかけたくないと学校の課題とアルバイトに必死になってしまっていました。チャレンジしたいことがあっても気持ちだけで行動に移すことができていませんでした。しかし当奨学金のおかげで金銭的にも精神的にも余裕が生まれ、気持ちを行動に移すことができるようになりました。衣装に関わるという大きな目標を達成するために、進学後も就職後も常に学ぶ気持ちをもって、成長し続けられる人材でありたいと思います。そして奨学生として選んでよかったと思われるよう人材でありたいと思います。

・貴法人からのご支援が心の支えとなり、学びに集中できる環境にできたことがこの1年間の学びの質の向上に繋がりました。4年次の1年間ご支援くださり誠にありがとうございました。これからは、ブライダル業界にてオーダーメイドドレスの制作に携わり、ゆくゆくは自社ブランドを持ちたいという目標に向けて一步一步、歩んでいきたいと思います。

以上